シーワールドのアニマル達

●ベルーガ

ゆっくりと尾ビレを動かし、優雅に泳いでいる全身白色のベルーガは、日本では、シロクジラ・シロイルカとも呼ばれ、高く澄んだきれいな鳴き声から「海のカナリヤ」というニックネームも付いています。このベルーガの飼育の歴史は大変古く、1800年代後半にイギリスのウエストミンスター水族館で飼育していたという記録が残っています。しかし、現在では世界でも飼育例が少なく、当館以外には、アメリカ・カナダ・ドイツ等数カ国でしか飼育されていません。

当館ではカナダ政府より捕獲許可を得て生捕りした３頭を昭和51年より飼育を始めましたが、現在では昭和63年にカナダより搬入したナック(雄：体長 308 cm) を筆頭に、旧ソビエト連邦のウラジオストクから搬入したデューク (雄:体長359cm)、ソーニャ (雌：体長336cm)、マーシャ (雌：体長329cm) の計４頭を飼育しています。

ベルーガは、バンドウイルカなどとは違い背ビレはなく、扇型をした胸ビレを器用に使い、狭いところでも自由自在に通り抜けることが出来ます。また、真っ白な体はゴムまりのように柔らかく、首をよく動かして、つぶらな瞳でガラス面から客席をのぞく動作がしばしば見られます。ガラス面にやって来たベルーガに、手を振ってみると、ベルーガがそっと微笑んでくれるかもしれません。

(金子)

●シリヤケイカ

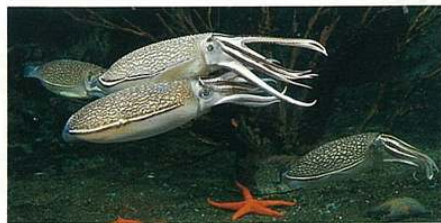
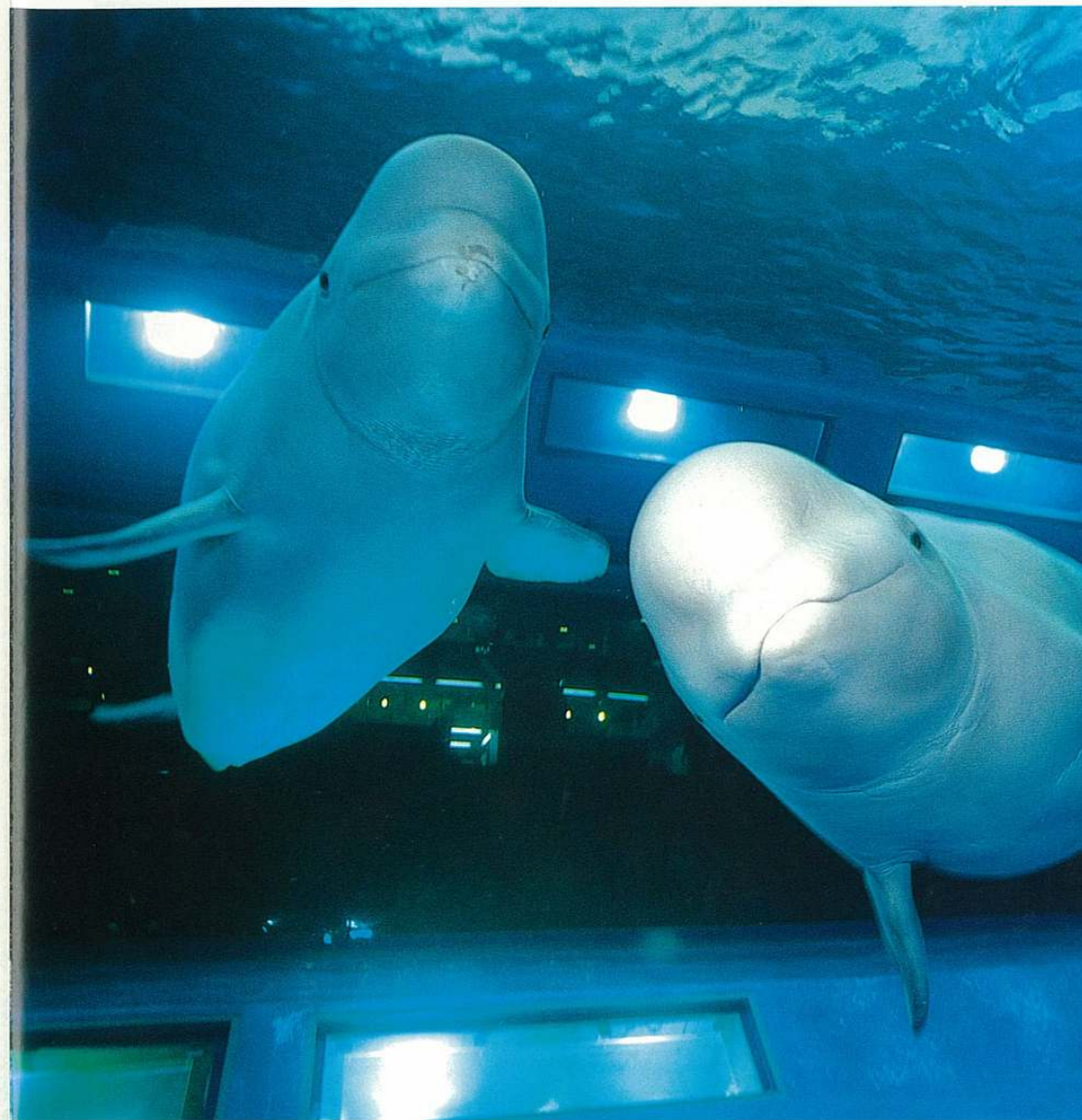
シリヤケイカは、東北地方以南の西太平洋全域に分布する甲長18cmほどの中型のイカです。体の後端の分泌腺から褐色の分泌物を出し、ちょうど尻が焼け焦げたように見えることから尻焼けイカという名前がついています。

今年の３月に鴨川で採集したシリヤケイカが当館の飼育水槽内で５月に産卵し、その約40日後には甲長３～４mmの仔どもたちが次々と誕生しました。このシリヤケイカの仔どもの飼育は順調で、７月より「海を知らないシリヤケイカの仔ども」として展示しています。

シリヤケイカの飼育で最も気を使うのは餌の確保です。孵化して数日後には生きたアミを食べ始めるようになり、成長にあわせてエビや小魚等の活き餌を与えますが、イカの仲間は目が大変優れているため、死んだ餌は活き餌と区別してなかなか食べてくれません。しかしそのうちに、冷凍のイワシやエビを食べるようになり今では約50匹が甲長12cmまでに成長しました。

シリヤケイカの寿命はとても短く、産卵後、１年という短い一生を閉じます。水槽内ではすでに求愛行動が見られるようになり、10月27日には産卵も確認されたことから飼育係員一同は三世誕生に期待しています。

(加藤)

▲ベルーガ *Delphinapterus leucas*

▲シリヤケイカ *Sepiella japonica*

さかまた No.40 (禁無断転載)

編集・発行 鴨川シーワールド

〒296 千葉県鴨川市東町1464－18
☎(04709)2－2121

発行日 平成４年12月

さかまた

鴨川シーワールド NO. 40

水族館の「うら方」見学

「ディスカバリーガイダンス」

▲水族館まるごとウオッチング

水中で生活する生物を単に観察するだけでなく、日ごろ目にすることのできない水族館の「しくみ」をよりよく知っていただくとともに、生活する生物のすばらしさを直接肌で感じてもらうことを目的として、昭和60年10月から開館15周年の記念行事の一つとして体験プログラム「ディスカバリーガイダンス」を開始し、今年で7年目を迎えました。そこで、今回はこの「ディスカバリーガイダンス」のメニューを紹介してみましょう。

メニュー1：魚とのコミュニケーションタイム

普段は公開されていない魚の展示水槽の管理通路に入り、マダイ・アジ・イサキなどの魚に餌を与える給餌体験プログラムです。当館で与えている餌の種類や給餌の方法について詳しい説明があった後に、数種類の餌を参加した人々の手によって給餌してもらいます。プールにエサが投げ入れられると魚達は勢いよく餌に群がり、水がかかってしまう事もしばしばですが、参加した子供たちはもちろんのこと大人たちも童心に帰り、楽しい親子のコミュニケーションが盛り上っています。

メニュー2：イルカは友達

海の動物のアイドル的存在であるイルカとのふれ合いプログラムですが、係員がショー開始前に幸運な20名の参加者を選ぶ際にはいつも苦労するほど、たいへん人気のあるプログラムです。ショーが終わった後にショーステージにおいて、イルカの頭を、選ばれた20名一人一人に触れてもらいます。触れたあとの感想は「ツルツルしている」という言葉が良く聞こえますが、中には「どんな匂いがするのか」とイルカに触れた自分の手の匂いを嗅いでいる人もいます。イルカに触れた後には「イルカタッチ証明書」をプレゼントし、記念として持ち帰ってもらっています。また、残念ながら選ばれずにイルカに触れることができなかったお客様のためには、イルカとの写真撮影プログラムも用意されています。

▲魚とのコミュニケーションタイム

▲イルカは友達

メニュー3：セイウチにさわろう！ムックにタッチ

アシカショーが終わった後に北極海に住み長い2本の牙をもつセイウチにタッチしてもらうプログラムです。セイウチの「ムック」はメスとはいえ口のまわりに数百本の太いヒゲがあり、しかも体重700kgを越える体をしているため、係員が「目以外ならどこに触っても結構です』とアナウンスをしても触るのを怖がる人が多く見られます。しかしとまどい気味だった参加者もセイウチがおとなしい動物だとわかるとムックの周りに人の輪ができ、記念撮影をする人々も見られます。すっかりファンになったお客様からは、「ムックはずいぶん大きくなりましたね』と声をかけられることも最近ではしばしばあります。

▲セイウチにさわろう!! ムックにタッチ

メニュー4：水族館まるごとウオッチング

水の生き物たちの生命を守っていくための飼育施設や電気機械関係の設備を専門スタッフのガイドにより紹介するプログラムで、その名の通り水族館をまるごと味わえるプログラムといえます。魚の給餌体験をしてもらった後に、空気・水などの冷暖房設備、停電時の発電装置、水中へ酸素を補給する空気圧縮設備、水を送る巨大なポンプなどが設置されている機械室へ案内されます。そこでは、「このポンプで家庭のお風呂に水を送るとわずか3秒で一杯になります』といったような身近な例をもって紹介しその規模を納得してもらっています。そしてファイナルコースは、北極海に生息する全身真っ白なクジラ、ベルーガとの対面となります。初めてベルーガの姿を見た参加者からは、例外なく歓声があがります。ベルーガとのスキンシップを図る前に係員からベルーガや施設についての紹介が行なわれます。そして、待望のベルーガとのタッチや海のカナリヤとも呼ばれる美しい鳴き声を聞いた後、このプログラムの全コースが終了します。

この「ディスカバリーガイダンス」は現在のところ限られた少人数の人々しか参加していただけないことを、非常に残念に思っていますが、いずれのメニューでも参加した人々からはたいへんに満足そうな笑顔が多く見られ、水族館のしくみを充分に理解してもらえているようですので、これからは各メニューの一層の充実をはかると共に、新しいスタイルを考えたり、出来るだけ多くの人々に参加してもらえるようなシステムを作るなどの努力をしていきたいと思っています。

（荒井、勝俣悦）

▲水族館まるごとウオッチング

トピックス

アシカ笑う ニヤッ

▲カリフォルニアアシカ *Zalophus californianus* 「マンディー」の笑顔？

いよいよアシカショーの開始です。ダイナミックな音楽とともに、主役を演じるアシカのマンディー君がマントをなびかせて登場します。風を切り、軽やかに水中へダイビング！そしてトレーナーと一緒にお客様の目の前にあるお立ち台までやってきます。客席からは「カワイイ」という声が聞こえてきます。「ハイ笑って！」というトレーナーの言葉に客席からは、どよめきにも似た歓声が…。アシカが笑う？、どうやって？、そんな声が聞こえてきそうです。アシカの顔をのぞくとニヤッと笑っているではありませんか。

この「笑い」の訓練には苦労しました。ショーのなかでご覧いただくアシカの芸は、主にからだ全体を使った動作であるのに対して「笑い」は顔の表情を変えるという今までにない動作です。アシカには、イヌのように牙をむきだした表情をすることは見られませんが、よく見ると餌を食べる時やあくびをする時など、片方の上くちびるを少し持ち上げる行動があります。そこで係員の合図で、もっと大きく上くちびるを上げることを教え始めました。２週間後にどうやら「笑い」は完成しましたが、笑っていると言えば確かに笑っているのですが、怒っているようにも見えるのです。しかしショーで披露したところ、大きな歓声が上がり、どうやら笑った顔にみえたようだとホッとしました。

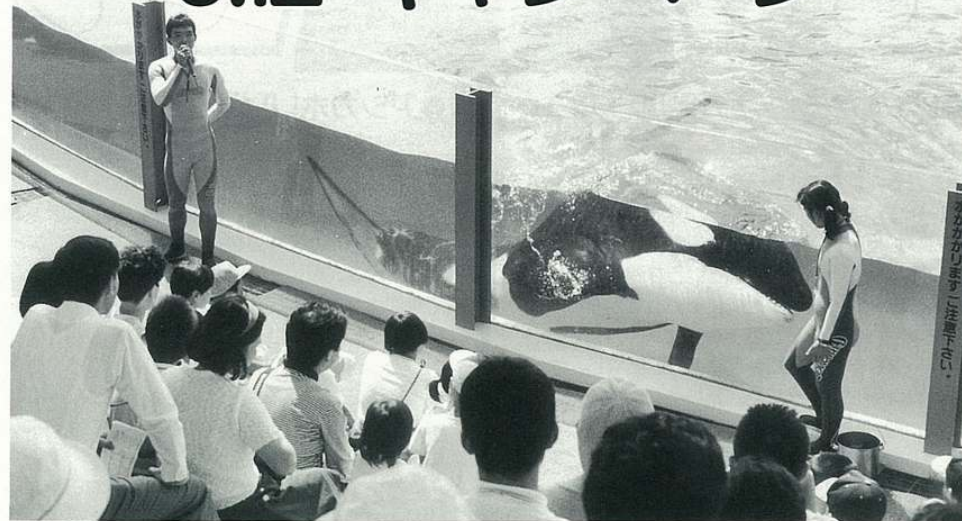
▲「みなさんコンニチワ!!」お客様の目の前へ

今では、アシカショーの表看板、いや表表情？となったマンディー君の笑顔に負けないように、私達トレーナーも、笑顔で楽しんでいただけるショー作りにがんばっていきたいと思っています。

（中野）

▲カリフォルニアアシカの横顔

⇨

▲「ハイ、笑って」うわくちびるの持ち上げ

9.12 キャンペーン

▲シャチ *Orcinus orca* についてのQ&A

本年９月より毎月第２土曜日を休日とする学校週５日制がスタートしました。そして、文部省ではこの第１回目の休日である９月12日を生涯学習活動推進の重点と位置付けた「9.12キャンペーン」を各団体へ呼びかけ実施しました。当館でもこのキャンペーンに協力し、当日は高校生以下の入園

▲バンドウイルカ *Tursiops truncatus gilli* の各部分の説明

料を無料とし、入園者全員に「水族館の楽しみ方」と題したパンフレットを配布すると共に園内では様々な特別な催しを行いました。

パンフレットには、園内の見所や水族館のしくみ、生き物達の習性、動物たちの調教方法などについて紹介し、新たな発見をしながら園内をご覧いただけるよう工夫しました。また、特別催し物の一つである「海の動物Ｑ＆Ａ」では、イルカやアシカ・シャチなどを目の前にして、トレーナーがお客様の色々な疑問に分かりやすく答えるシステムを採用しました。この他にも「磯の生物Ｑ＆Ａ」、「クジラの映画上映」、「動物友の会の月例会」などが行われました。

今回の「9.12キャンペーン」には2,000名以上の高校生以下の人達が参加し、大変な好評を得ましたが、この日のシーワールドは、学校休日のための健全な場の提供となっただけではなく、海の生き物たちへの理解を深めていただく場としてもおおいに役立った日にもなりました。（前田）

▲磯の生物についてのQ&A

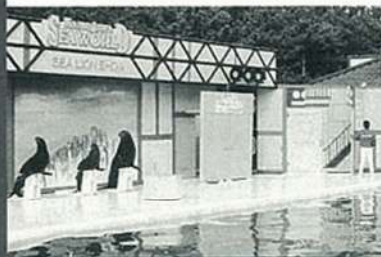
●レストランオーシャン カフェテリアオープン

レストランオーシャンは、水中のシャチの姿を見ながら食事ができるレストランとして好評を得ています。近年ご利用いただくお客様が多くなり、テーブルサービス方式のレストランでは料理の提供に時間がかかるなど、いろいろな問題が発生しました。そこでプロジェクトチームを組み、2年近く検討した結果、セルフサービスのカフェテリア式レストランに模様替えすることになり、7月1日にオープンしました。新しくなったレストランは料理・飲物などをサービスカウンターでお客様のお好みで選ぶことができます。皆様もご来園のおりには鴨川シーワールドの雰囲気にマッチしたレストランで、くつろぎのひと時をお過しください。

（高橋栄）

●アシカホリゾント改装

アシカショーステージの舞台装置としてのホリゾントが夏シーズンを前に「洋風建物」から「スタジオ風」に改装されました。両脇に８つの大きなスピーカーと天井に数多くの照明を持つこのホリゾントは、ショー中にセットを変更することができます。１つは、大きな支柱を持つコンクリートの壁、そしてもう１つは、レンガで造られたアメリカの古い街並です。ショーの進行に合わせながらこの２つのセットを使い分けることにより、より臨場感あふれるショーを御覧いただけるようになりました。

新しいホリゾントの前で繰り広げられるアシカとトレーナーのゆかいなエンターテイメントを是非お楽しみください。（金野）

●ひと夏の体験inオーシャンスタジアム

夏休みが始まったばかりの７月19日と26日の２日間、シャチの１日トレーナーにチャレンジする、女性を対象とした催し物が行なわれました。「ひと夏の体験」と名付けられたこの催しには16〜25才の女性４組12名の募集に対し、予想を上回る545組、1635名もの応募が寄せられました。当日、高い競争率をクリアした参加者は、トレーナーからレクチャーを受けた後、ウェットスーツに着替えチャレンジを試みました。合図を出すと意のままに動作を行ってくれるシャチの賢さに驚いたり、背中に乗ってシャチのダイナミックな泳ぎを体感したり、熱烈なキスに歓声を上げたり、さまざまな感激にひたりながら貴重なひと夏の体験を楽しんでいました。

（勝俣浩）

●平成４年度サマースクール報告

７月21日から７月30日までの夏休み期間中に、「サマースクール」を開校し、今年も小学生の参加者が、海の生き物について楽しく学びました。サマースクールも回を重ね、20回目を迎える今年は、延べ９日間、357名の参加者がありました。

今回のサマースクールは、『泳ぐ』という動作に注目し、魚をはじめ、シャチ・イルカ・アシカなど、海のけものたちの水の中での巧みな動きを観察した後、「シャチは水の中でどのくらい息を止めていられるか。」「アシカはヒトと比べてどれくらい速く泳ぐことができるか。」など、本物の動物を目のあたりにして実験を行いました。

今後も、動物たちとのふれあいを通じ社会教育の一端をになうことができればと考えています。

（関）